

令和2年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	41	学校名	静岡県立静岡商業高等学校	校長名	金親 徳行
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的な生活習慣の確立 ビジネスマナーの育成	①遅刻を昨年度より減らす 朝指導の実施 ②ネット依存対策講座の実施 ③交通安全教室の実施 自転車事故ゼロ	①欠席7.1人/日(昨年8.5人)、 遅刻2.9人/日(昨年2.6人) 1/27現在。今年度はコロナ禍で出席状況等の捉え方が異なり比較が困難である。 ②ネット依存テストを実施した。生徒がネットの使い方を自己評価する機会となった。 ③交通安全教室2回実施(予定)。自転車事故は13件の報告あり。(昨年18件)	B	①コロナ禍で予防的な対応による数字も含まれている。臨時休業を挟みながらも大きな混乱はない。来年度も健康観察を確実に行う。 ②今年度初めて導入。今後は、研修を重ね、いかに有効活用するか引き続き検討する必要がある。 ③幸いにも重大な事故にはつながっていない。あくまでも「ゼロ」を目指し、取り組む。
イ	新教育課程の編成 「自学自習」の推進 授業改善の推進	①教育課程検討委員会の開催 新教育課程の完成 ②スタディサブリの導入 家庭学習課題の工夫 「高校生のための学びの基礎診断」の実施と有効活用 ③公開授業週間の実施	①毎月開催。新教育課程について、県教委へ提出した。 ②4月当初より導入。特に臨時休業中、課題や連絡用として有効活用できた。学びの基礎診断についても予定通り実施。 ③公開授業週間を2度実施。	A	①県教委からの指導を受け、来年度確定する予定。 ②他の情報手段と併用しながら、効果的な使用方法を検討する。 ③公開授業週間を授業力の向上にどうつなげるかが重要。
ウ	多様な進路希望の実現	①進路決定率(就職・進学)100% ②手帳の活用	①就職希望者については全員進路達成。進学についても今後受験の者を数名残すのみ。 ②各学年単位で、手帳の採用、使用方法に工夫を加えた。	A	①コロナ禍により、来年度は今年度以上に就職は困難が予想される。 ②全生徒が手帳を採用して2年目。携帯する習慣はついた。今後はいかに使いこなすか。
エ	行事や部活動の活性化	①学校行事の企画・立案・運営を生徒(生徒会や委員会等)が担当する機会を多くする ②県大会出場以上の目標実現 コンクール・競技会や地域行事等への積極的参加	①コロナ禍で文化祭が中止となったが、代替として12月に静岡市民文化会館にて生徒会主催の文化発表会を開催した。 ②コロナ禍で多くの大会等が中止。軟式野球・ソフトテニス部が東海大会へ出場した。	B	①来年度は、大掛かりな体育館の補修工事が予定されている。またコロナの影響も予想される。今年度のような代替案も視野に計画を立てる必要がある。(文化祭、修学旅行等) ②体育館の補修工事により、練習場所の確保が急務となる。
オ	地域連携事業の推進 開かれた学校づくり 地域への広報活動の工夫 P T A 活動の合理化	①地元企業と連携し、商品開発や販売実習を積極的に行い、実学教育を推進 ②体験入学や公開授業の参加者を昨年より増加 ③P T A 行事の精選 P T A 地区会の在り方を検討 ④H P 更新 1週間に1回以上	①課題研究の多くの講座で地元企業とコラボした活動ができた。 ②体験入学は今年度コロナ禍のため、中止。公開授業参加者は682名。(昨年は290名) ③地区会中止。来年度以降も実施しない方向。 ④頻りに更新されている。	A	①地元企業、商店街との信頼関係が深まっている。課題研究等を通じ、生徒の活動の幅を広げる。 ②今年度以上に、本校を知ってもらう機会を多く設定する。 ③地区会は廃止。学年ごとに集まる機会を利用し、保護者との意見交換をする。 ④分掌、学年、部活動からの情報の回収を確実にを行う。

様式第3号

カ	<p>学校組織の見直し 教職員の健康管理 不祥事根絶</p>	<p>①各分掌業務の精選 ②適切な年間指導計画の作成 ③部活動検討委員会の開催 ④ストレスチェック等で課題を抱える教職員ゼロ ⑤コンプライアンス研修の実施 不祥事ゼロ</p>	<p>①コロナ禍において各分掌業務が精選される機会となった。 ②シラバスのチェック・更新を行った。 ③職員数減少が予想されることに伴い、部活動の統廃合の検討を始めた。 ④ストレスチェック等で課題を抱える教職員の報告はなかった。 ⑤毎月、職員会議前に実施。今年度の不祥事はゼロ。</p>	B	<p>①分掌の統合を含め検討する。 ②シラバスの精度を高める。 ③生徒課を中心に検討を続ける。 ④引き続き職員同士のコミュニケーションを図り、少しの変化も見逃さない目を持つ。 ⑤あたりまえのことを話題にし続け、自分のこととして捉えることが大切。来年度も引き締めて取り組む。</p>
キ	<p>生徒の自己健康管理 教育相談機能を充実 防災教育・防災訓練の充実 教育環境の整備・充実</p>	<p>①保健だよりの発行 健康観察記録の有効活用 薬学講座 年1回 健康講座 年1回 ②いじめアンケート 年2回 学校生活アンケート 年3回 ③防災訓練 年3回 交通安全教室 年2回 地域防災訓練への参加 AED・エピペン実習の実施 ④施設・設備安全点検 学期1回 効果的な予算執行</p>	<p>①保健日より月2回発行。 健康観察記録の担任確認。 薬学講座 学校薬剤師より提供されたDVDを使い各教室単位で実施。 健康講座 中止(コロナ禍) ②予定通り実施。 ③コロナ禍で中止せざるを得ないものが多かった。 防災訓練1回実施 交通安全教室2回実施(予定) 地域防災訓練については中止するところが多かった。代替としてレポートを提出させた。 AED・エピペン実習は職員会議後に簡略して実施。 ④予定通り実施。</p>	A	<p>①実施が可能なものについては、計画通り実行した。生徒の安全を基本に取り組む。 ②引き続き実施し、活用する。 ③交通安全教室は、密としないよう分散して実施。ライブ配信も視野に開催方法は工夫する。 ④今後も定期的な安全点検を実施する。また、今年度はコロナ禍にあって集会等が満足にできない状況にあった。その代替策として、一斉放送システムを全教室に設置した。来年度以降は、今年度以上の活用が見込まれる。</p>